

令和7年度

地域連携実習報告書

●教育学部実習委員会

●教職支援ルーム



目次

I. はじめに	1
II. 令和7年度地域連携実習の現状と課題	2
III. 地域連携実習アンケートの結果	3
IV. 学校別事業一覧	5
V. 活動タイプ別 地域連携実習報告書（抜粋）	9

1. はじめに

今年度の地域連携実習では、たいへん多くの学生が、大学の中では得られない貴重な教育体験をさせていただきました。はじめに、事業をご提供くださった学校園や教育関係機関のみなさまに心より御礼を申し上げます。

「地域連携実習」は、教員志望の学生たちが地域の学校現場や社会教育の場などで子どもたちとふれ合い、さまざまな教育体験活動をさせていただくものです。教員免許法に定められる「教育実習」とは異なり、卒業要件や教員免許取得に直接かかわるものではありませんが、それぞれの学生が目指す学校種についての理解をさらに明確にする機会であり、また子どもとのかかわり方や学習支援の方法などを学ぶうえで大変重要な機会となっています。

まだまだ改善すべき点は多くありますが、今後も互恵的な関係に基づき、地域に密着した教育活動が円滑に行えるように努力を重ねて参りたいと思っております。どうぞ今後もよりいっそうのご支援とご協力を賜りますよう心よりお願いを申し上げます。

II. 令和7年度地域連携実習の現状と課題

令和7年度の地域連携実習の総事業数は159件（前年度：125件）で、2割以上増加した。事業提供機関は45機関（前年度：42機関）であり、微増となった。

また、地域連携実習への参加状況は、次の通りである。FIC登録学生は544名で、うち教育学部は484名（院を含む）で、教育学部を除く学生の登録者は60名であった。前年度（総数492名、うち教育学部454名（院を含む）、教育学部を除く38名）よりも1割の増加となった。

また、地域連携実習参加学生は延べ725名（実質378名）、前年度（延べ629名、実質370名）となり、約100名の増加となった。実質参加者の内訳は教育学部が348名（院を含む）、教育学部を除く学生が30名であり、前年並みとなった。

上記を含め、どのデータを見ても、令和7年度は令和6年度と比較して上昇している事が確認できる。これは4月当初に数回実施した、地域連携実習のガイダンスからの傾向でもある。参加者は1回生が多いことは例年と変わらないが、昨年度からの引き継ぎ課題であった2回生の参加も増加傾向にあることは喜ばしいことである。

地域連携実習の管理はFICによって行われているが、本年度（2026年3月5日時点）での書き込みは諸々併せて5000件を超えており、愛媛大学の地域教育に対するコミットメントが広く浸透してことが実感できる。

本年度の特徴的な活動として、「東温市地域未来塾」「東温市わくわく放課後子ども教室」がスタートした。愛媛大学文京キャンパスからは少し距離があるが、東温市出身の学生を中心とした参加があり、熱心な活動が展開された。近隣の学校でも、東中、附属中学校の「調理実習」が募集の増加に繋がった。他、学生が橋渡し役をして、地域連携実習の募集に至ったケースもあった。

反省点としては、学生からの「ハウレンソウ」が徹底されていない点がある。この件は毎年指摘を受けている内容であり、年度当初から更に強く徹底することを呼びかけたい。

最後に、今年度もオープンバッジを導入した。オープンバッジとは、知識・スキル・経験のデジタル証明であり、欧米を中心に大学や資格認定団体、グローバルIT企業が多くオープンバッジを発行している。令和7年度は、「地域教育支援認定証（FIC30時間以上参加）」を21名に、「地域未来教育賞（FIC60時間以上 認定資格条件あり）」を9名に授与した。昨年度スタートをした企画であるが、昨年度と比較して、両認定ともに増加をしている。大変よい傾向である。オープンバッジは本人の活動の客観的な指標になるので、今後とも継続をする計画をしている。

地域の学校に支えられて、地域連携実習は継続できている。このことを学生と共有をしながら、「感謝」の気持ちを持って実習に臨みたい。

Ⅲ. 地域連携実習アンケートの結果

教職支援ルームでは、令和8年1月下旬に協力校に対して、「地域連携実習アンケート」を実施した。主な内容は1) 活動に参加した学生の様子（良かった点や気になった点）、2) 大学への要望、改善策など、3) 学生を募集するときの工夫、また、来た学生に配慮してくださっていること等について、4) 自由記述、であった。その内容を以下のようにまとめた。

1. 活動に参加した学生の様子

アンケート調査から次のことが分かった。一部を引用して列挙しておく。

【良かった点】

小学校

- ・活動の趣旨を理解し、上手に児童の支援を行える学生が多く、助かっています。特に実習を経験した3・4回生は頼もしいです。
- ・どの学生さんも気持ちの良い挨拶ができ、お願いしたことを快く取り組んでくれました。また、自分からできることを見つけては、「私がやります。」と声を掛けてくれました。いっしょに活動した保護者や地域の方からも喜ばれていました。
- ・前向きに、主となり活動してくださり、執行部、教員、共に本当に助かりました。楽しかった！！と言ってくれた学生さんも居て、こちら嬉しかったです。

・中学校

- ・事前の打ち合わせから、とても丁寧な対応で助かりました。当日の生徒とのやりとりもスムーズで、実験の準備から片付けまで、自分たちで考えて行動してくれました。
- ・調理実習では、安全に実習を終えることが重要なので、たくさんの目で見守っていただき、助かりました。

高校

- ・真摯な態度で活動に参加してくれました。担当した先生方の評判も良いです。職員室に来た際も、他の先生にしっかりとあいさつできており、好印象でした。
- ・今何をすればいいのかを考えて行動できていると感じました。とてもよかったです。

幼稚園

- ・活動中には、自らどのように行動すればよいかを考えて行動してくれる場面も多かったので、大変ありがたかった。
- ・初めて経験する内容にも積極的に挑戦し、活動全体を前向きに楽しもうとする姿勢が感じられ、保育現場への関心の高さが伺えた。

特別支援学校

- ・学ぶ姿勢があり、好感が持てた。
- ・ニーズに応じて、教員が足りないところを手伝ってくれたので良かった。
- ・子どものことを考えて、動いてくれる学生が多かった。

教育委員会や教育施設

- ・将来教員になるという目標に向けて、活動に取り組んでいる様子が見られました。
- ・とても優秀で子供たちへの接し方、コミュニケーションの取り方、勉強を教える姿勢など、私自身が気づかされる点や学ぶ点も多くとても有難い存在でした。

<ul style="list-style-type: none"> ・学生は活動をリードしながら積極的に子どもたちと関わり、声かけや見本を示すことで、その姿勢に触発された子どもたちが、いつも以上に楽しそうに、テキパキと行動する様子が見られました。
<p>【気になった点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分からどんどん子どもに関わって欲しいという声が学担からありました。 ・学生さんも忙しいので無理は言えないところがあるが、早めに連絡してくれると安心である。 ・実習を希望する学生から、連絡がないままのこともありましたので、連絡が必要な旨再度ご周知いただけると助かります。 ・メールで来校予定をやりとりするのですが、来校予定がないのなら「ない」とお返事をいただくとより社会に出た時にマナーとしてよいと思います。
<p>【学生募集するときの工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水泳や校外学習の見守りの支援時には、冷たいお茶、スポーツドリンクを渡しました。 ・授業の事前準備や、資料作りなどについても、情報を提供しています。 ・何よりも学業が大切なので、予定の日に急に大学のご用が入ったりした場合はお休みくださいと伝えてあります。体調が悪いときも遠慮なくお休み連絡をくださいと伝えてあります。 ・周りや子どもたちに対しての気づかい 寄り添い方、行動、言葉かけがまだ足りない学生さんに対しては、なるべく見本になるように心がけているつもりです。 ・活動内容については、必要最低限の説明にとどめ、学生自身が状況を見て考えたり、工夫しながら動くことを尊重している。 ・来校日に研究授業があるときは、大学生の勉強になればと思い、参観してもらいました。
<p>【大学への要望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通年の事業のため、難しいかと思いますが都度学生の皆様を広く募りたく良いかたちで学生の目に留まるかたちを見出せましたら幸いです。 ・年間を通じて授業支援をお願いしたい。今回2回に分けて募集した。どのような募集のかけ方が、学生が参加しやすいのか教えてほしい。 →掲示物は年間通して貼りだしていますが、システムの編集をお願いしてみます。 ・学校への連絡は、メールでの送付がありがたいです。こちらもメールアドレスが分かっていた方が、追加での連絡がしやすいです。当日などに、緊急の対応があった時のみ電話を使う形でもよいと思います。 →メールアドレスをお付けすることも可能です。 ・電話連絡がない学生もいたので周知をお願いしたい。 →ガイダンスと、参加決定時にメールで周知しておりますが、もう少しこちらで改善策を考えます。

以上のアンケート結果を踏まえながら、今後の課題と解決策として、ガイダンスで強調して説明を行うことで、改善していきたい。

※少しでも分からないことや要望があれば、教職支援ルームまで遠慮なくご相談ください。

IV. 学校別事業一覧

協力校等	事業名	学生登録数
松山市立三津浜小学校	三津浜商店街を走る校内持久走大会の補助	1
	三津浜小学校 大運動会の補助	11
松山市立中島小学校	少人数学級・複式学級授業補助	4
松山市立八坂小学校	授業の補助(3学期)	0
	授業補助	4
	遠足の補助	1
	ICTサポート実習(後期)	2
	ICTサポート実習(前期)	0
	プール授業補助(監視)、授業補助	2
松山市立双葉小学校	特別な支援を必要とする児童への支援	3
松山市立味生第二小学校	2年生町探検の補助	2
	水泳授業の補助	2
	3年生町探検の補助	11
松山市立味酒小学校	家庭科 裁縫の学習における子どものサポート	4
松山市立和気小学校	遠足の引率補助	2
	校内持久走大会の見守りと伴走	4
	遠足の引率補助	3
	授業の補助	3
	新体力テストの外種目の測定の補助と支援	4
松山市立姫山小学校	授業の補助	4
	授業の補助(後期)	0
松山市立東雲小学校	水泳学習の監視	3
	水泳部の監視	0
松山市立清水小学校	ICTサポート実習(後期)	2
	ICTサポート実習(前期)	0
	配慮を必要とする児童のための支援	1
松山市立湯築小学校	体育科(水泳)、水泳部の監視	6
	2年生生活科「町探検」の見守り支援	13
	音楽部の楽器指導及び譜読みの補助 合唱の音取り	7
	算数科における学習支援	22
	算数科等の学習支援	14
松山市立潮見小学校	防災食の調理補助	2
松山市立石井小学校	特別な配慮を要する児童の支援	3
松山市立石井東小学校	東っ子祭(ひがしっこさい)の補助	26
松山市立素鷲小学校	水泳授業の補助(監視)	0
松山市立道後小学校	特別支援教室への補助	1
	ICTサポート実習(前期)	2
	ICTサポート実習(後期)	3
	特別に支援の必要な児童への補助	2
	「道中祭」の運営補助(道後小おやじの会ブース)	8
	「道小デイキャンプ(お化け屋敷など)」の運営補助	11
	「道後の町探検」サポーター(道後小2年生)	12
	道後小3年生 町探検サポーター	14
	道後っ子マラソン大会(道後公園)	0

愛媛大学附属小学校	1年生校外学習（城山公園）引率補助(R7年度教育実習1年部配	14
	3年生の校外学習引率補助（交番 県警本部見学）	4
	校区探検の補助（11月27日）	1
	IN附小 夏フェス2025	24
	運動会の補助（3・4回生対象）	6
	集団宿泊活動（レインボーキャンプ）引率補助	12
	2年生の校外学習引率補助（町探検の引率）	7
	校区探検の補助（12月18日）	1
	松山気象台 校外学習引率補助（参加する学生は決定済み）	8
	国立大洲青少年交流の家 引率	5
	くすのき学習 4年組 校外学習引率補助（R7年度 附属小4年	1
	校区探検の補助（6月27日）	4
	2年生の校外学習引率補助（1/29公園探検の引率）	1
	2年生の校外学習引率補助（1/20公園探検の引率）	2
	校区探検の補助	3
	2年生の校外学習引率補助（スーパーマーケット見学の引率）	2
	卒業プロジェクト 道後村めぐり	5
	舞台芸術鑑賞の引率補助（R7年教育実習生）	10
	校外学習引率補助 アーバンデザインセンター見学	5
伊予市立港南中学校	放課後アシスタント（放課後の質問学習の補助）	2
東温市立川内中学校	サッカー部の指導	1
松山市立余土中学校	せっけんづくりの実験の補助	2
	とべ動物園 校外学習の付き添い	5
松山市立東中学校	被服実習の補助（12月15日お弁当袋）	0
	調理実習の補助（10月りんごの皮むき）	4
	被服実習の補助（11月10日お弁当袋）	0
	被服実習の補助（12月8日）	0
	被服実習の補助（1月19日）	0
	調理実習の補助（10月ムニエル）	5
	調理実習の補助（11月しゅうまい）	1
	被服実習の補助（11月）	3
	被服実習の補助（11月20日お弁当袋）	6
	家族・家庭生活授業の補助	1
	調理実習の補助（12月3日小松菜の煮びたし）	1
	被服実習の補助（12月22日お弁当袋）	0
	被服実習の補助（1月14日）	0
	被服実習の補助（12月1日お弁当袋）	0
松山市立桑原中学校	合唱コンクールのピアノ伴奏	0
松山市立西中学校	部活動指導の外部指導員（西中学校卓球部）	1
済美平成中等教育学校	吹奏楽部の補助指導	3
愛媛大学附属中学校	調理実習の補助（12月 鯛めし）	2
	調理実習の補助（11月ハンバーグ）	7
	調理実習の補助（2月魚のホイル焼き）	3
	調理実習の補助（10月りんごの皮むき）	4
	調理実習の補助（1/23 蒸しパン）	1
	調理実習の補助（2/27 蒸しパン）	6
	青葉写生会の補助	9

松山聖陵高等学校	学び直し（数学）のサポート	3
道後聖母幼稚園	運動会の補助	5
愛媛大学附属幼稚園	愛媛大学教育学部附属幼稚園学芸会	0
	園外保育の補助（芋掘り）	3
	園外保育の補助（道後散策）	5
	学芸会の補助	6
	預かり保育 保育支援者の募集	1
	愛媛大学教育学部附属幼稚園運動会	3
	園外保育の補助（バス遠足、ミカン狩り）	5
	愛媛大学教育学部附属幼稚園運動会の補助	10
愛媛大学附属特別支援学校	学校祭での児童生徒の活動支援や写真撮影	7
	運動会での児童生徒の活動支援（令和7年度4回生・院生）	5
愛媛大学附属高等学校	吹奏楽部の指導補助	5
	女子バレーボール部の指導補助	2
えひめ乳児保育園地域子育て支援センター	子育て支援センターのイベントの補助	6
久米公民館	久米公民館わくわくチャレンジサタデー	35
松山市久枝児童館	第29回『もっと あそんで つながれ ともだちのWA』あ	27
潮見公民館	あそびの学校「防災バックを作ってみよう」編	5
	あそびの学校「防災テントを作ってみよう」編	3
伊予市役所市民福祉部子育て支援課	伊予市ひとり親家庭学習支援事業「伊予っ子教室」	8
大洲青少年交流の家	サマーキャンプin大洲	5
	親子でアウトドア防災編	1
	ボランティア自主企画	3
	交流の家通学合宿～楽しく学ぼうSDGs～	4
	親子でアウトドア カヌー編平水版①	2
	ボランティア養成講座「子どもと関わる！体験ボランティアセ	9
	親子でアウトドア カヌー編ソーリング版	1
	めざせ！サイエンス・マスター	1
	体験フェスティバルin交流の家	2
	親子でアウトドア カヌー編平水版②	1
松山市社会福祉協議会	福祉体験学習の補助 清水小学校 5年部	3
	しみずサポートボランティア	3
愛媛大学提供事業	「四国88カ所霊場札所中学生ボランティアガイドの養成活動支	0
	外国につながるのある子どもへの学習支援	3
	訪問カレッジ・オープンカレッジ@愛媛大学	2
	第42回愛媛ブルーランドサマーキャンプ（教育学部2～4回生	0
	応用実習後の実習校での活動	0
	ふるさと実習後の実習校での活動	0
	道後小中学校区石手地域大山積神社秋祭りのサポート	11
	伊予の伝承文化を学び伝えるリーダー村（上級クラス・発展ク	5
	第8回多文化Cookin の補助	4
	新宮小中学校サマースクール	14
	マイクラで協力して遊ぼう！	2

	第42回愛媛ブルーランドサマーキャンプ（看護学科2～3回生対象）	11
	新玉小学校・全校遠足での引率補助	8
	愛媛大学放課後学習教室	1
	愛大ゲームラボ	2
	産業まつりマイクラ操作体験（愛媛県庁連携企画）	0
	連携校実習（教職大学院）の提供活動	35
大洲市教育委員会文化振興課	ひらの未来塾	0
愛媛県教育委員会特別支援教育課	第24回愛顔のえひめ特別支援学校技能検定	5
	第23回愛顔（えがお）のえひめ特別支援学校技能検定	1
東温市教育委員会生涯学習課	東温市地域未来塾	5
	東温市川上わくわく放課後子ども教室	2
	わんぱく広場「滑川キャンプ」のサポート	8
	ジュニア体験塾（滑川キャンプ）の補助	4
松山市小中学校PTA連合会	キッズジョブ松山2025	11
松山市教育委員会保健体育課	部活動指導の外部指導員（北中学校男子卓球部）	1
	部活動指導の外部指導員（余土中学校サッカー部）	1
	部活動の外部指導員（小野中学校男子バレーボール部）	1
	部活動指導の外部指導員（鴨川中学校男子バスケットボール部）	0
	部活動の外部指導員（内宮中学校剣道部）	1
	部活動の外部指導員（東中学男子バスケットボール部）	0
	部活動指導の外部指導員（南第二中男子卓球部）	0
	部活動の外部指導員（西中学校陸上部）	1
松山市教育委員会地域学習振興課	石井小学校区子ども教室（松山市放課後子ども教室）	1
	坂本放課後子ども教室きらきらクラブ	1
松山市教育委員会学校教育課	中島中への大学生によるオンライン学習支援	2
	合計	725

V. 活動タイプ別 地域連携実習報告書（抜粋）

1. 学生企画型

久米公民館わくわくチャレンジサタデー

2. 小学校における継続型学習支援

特別に支援の必要な児童への補助

3. 小学校における短期型活動補助

少人数学級・複式学級授業補助

4. 中学校における短期型活動補助

調理実習の補助（2月魚のホイル焼き）

5. 中学校の課外活動における指導支援

サッカー部 部活動指導

6. 高等学校における教育体験活動

学び直し（数学）のサポート

7. 高等学校における教育体験活動

吹奏楽部の指導補助

8. 幼稚園における活動補助

附属幼稚園運動会の補助

9. 社会教育施設等での活動支援や活動補助

第29回『もっとあそんでつながれともだちのWA』 あそぼうフェスタ

10. 社会教育施設等での活動支援や活動補助

しみずサポートボランティア

11. 社会教育施設等での活動支援や活動補助

第42回愛媛ブルーランドサマーキャンプ

12. 社会教育施設等での活動支援や活動補助

大山積神社秋祭りのサポート

13. 社会教育施設等での活動支援や活動補助

第8回多文化Cookin の補助

1 学生企画型

久米公民館わくわくチャレンジサタデー

教育学部学校教育教員養成課程（初等中等教科コース）2 回生

実施記録	久米公民館	令和8年2月21日
わくわくゲーム 授業 全体遊び		
ふれあいを実施しての省察（ふりかえり）		
<p>準備の時間に、前回の活動も活かして久米公民館の利用方法を守りながら各々が必要な準備や児童への声掛けを行った。今回は修了式があり児童に流れを分かるようにするためにも、ホワイトボードにプログラムとわくチャレの合言葉を書いた。</p> <p>9:00 始まりの会 多くの児童が集合時間に来ており、時間通りに始まりの挨拶が始まった。</p> <p>9:04~9:17 わくわくゲーム~みんな!思い出して!わくチャレメモリアルクイズ~ スライド資料にクイズの問題と答えがあり、それを見ながら答えるゲーム。1つの机に1つのホワイトボードが配布されたが楽しむことに焦点が当てられており得点なしで行われた。活発な会話が行われ、盛り上がっていた。</p> <p>9:20~10:20 授業(国語) 導入。児童にわくチャレの中で一番思い出に残っていることを聞くことから始まった。「どうしてその活動が思い出に残っているのか」と理由を聞くようにされていた。その後、先生の思い出に残っている活動を写真とともに説明していた。 俳句と句会についての説明。児童から俳句の特徴である季語を用いること、5・7・5・の17音を用いることが自然と出ていた。 俳句を作る活動の説明。例を交えながら説明されていた。からだの動きに着目すること、気持ちを表す言葉を入れないことを強調していた。 歩き回って思い出を振り返る活動。あらかじめ各机の中に月ごとの紙のアルバムが用意されていた。児童が思い思いの活動月の机に移動した。児童の人数の偏りを調節しながら大学生も参加した。 俳句の種を探す活動。選んだ写真や思い出に残っている場面から、俳句の種を探した。思いつきにくい児童に机間指導を行った学生が適切に支援しながらグループで考えている姿が印象的であった。 中7と下5を俳句の種をもとにしながら考えるよう活動。上の句には先生が提示した季語が入ると説明された。俳句に思い出を落とし込むのに苦戦しながらも、一生懸命取り組んでいた。 俳句を整える活動。上の句に季語の「春近し」を入れるように説明があった。寒いけどまだ日中は暖かい様子で、今の時期と重ねられるという説明があった。活動の時期と季語の時期の差に違和感がある児童もいたが、各々の句を完成させた。黄色の短冊、赤と緑のシールが配布され、短冊の裏に名前、表に句を一行で間をあげずに書くように指示があった。この際に周りの大学生が消しゴムのゴミを片付けていた。 句会。シールの意味の説明、短冊の裏の名前を見ないこと、自分の俳句には投票しないことが強調されていた。なかなか選びきれない様子の児童が多かったので、個性を活かした俳句が作っていたのではないかと思った。</p>		

全体鑑賞。時間の関係でワークシートの選んだ俳句と理由の所は省略された。赤シール賞(一番良いと思った人が多かった)と最多シール賞に選ばれた句を全体で鑑賞した。それぞれの句に先生がどのような思いで詠んだかを聞いていた。一番の気持ちを詠めた、思い出に残った場面を詠んだという回答が返ってきた。

俳句は簡単で身近に作れるものであるという言葉で授業が締めくくられた。

10:25~10:55 全体遊び~文字を集めて、言葉をつむごう!俳句並べ替えゲーム!

説明、準備運動から始まった。かるたのように1枚ずつになったカードとヒントのカードを書類トレーをバトンにして、サイコロの名が出た数だけ運ぶ。全て運び終わると、そのカードを俳句で並び変えるという内容であった。2回戦行われた。事前に大学生に説明がなされており、臨機応変に人数調整ができていた。1回戦目は俳句を適切に並び替えることができなかったグループもあったが、2回戦目は並び替えまで成功したグループが増えた。応援や俳句を並べる際の会話が活発行われていた。活動が終わった際に、指を怪我した児童が1人おり、救急箱を用いて処置が行われていた。

11:00~11:10 感想シート

詳しく、一生懸命書いている印象を受けた。

11:10~11:13 感想シートの発表

4人の児童が発表してくれた。楽しかった内容や来年もしたいなどの感想が述べられた。修了式のため、全員で机といすを片付けた。

11:15~11:25 修了式

修了証授与。代表者1人が前に立ち、学生代表から修了証と前回作成した版画を受け取る。その後、列ごとに大学生から全員修了証と前回作成した版画を受け取る。

久米地区代表の堺先生のお話。「ランドセルが小さく見えて春近し」という俳句を詠んだ。最初の活動ではぎこちない様子もあったが、今は良い表情の児童ばかりである。わくわくチャレンジサタデーは子どもだけで成り立つものではない。楽しむのは子どもである。経験は財産であるので、中学生になってもわくわくチャレンジサタデーの活動を活かして頑張してほしい。(6年生に向けて)来年もたくさん仲間を引き連れてわくわくチャレンジサタデーに参加してほしい(5年生に向けて)

学生代表のお話。「伝え合い 助け合い 学び合い」という合言葉の振り返りが行われた。伝え合いでは、楽しかったことを児童が感想シート等を通して伝えてくれた。助け合いでは、グループやわくチャレ全体で協力できた。学び合いでは、グループ同士だけでなく、児童と先生(大学生)でも学び合った。先生(大学生)も児童から学ぶことが多くあった。

11:35~協議会

○授業者振り返り

シール配りや消しゴムのゴミの対応が助かった。

とりあわせという技法について。季語と季語以外を中7・下5をいれる。重なった情景を考えることができていなかった。俳句その者の鑑賞に焦点を当てることができていなかった。

○質問

・ 俳句を作る際に、体に着目させる意図は何か。

→授業者 ただの感想で終わらせないため。映像を切る取るのではなく、一部分を切り取るため。わくチャレが動くものに焦点を当てた活動であるので、それに合わせるため。

・ 季語を1つにした理由と「春近し」という季語を選んだ理由は何か。

→授業者 最初は四季で5つずつ用意していたが、鑑賞する際の着眼点がバラバラになってしまうため1つにした。季語が同じでも中7・下5での違いを鑑賞してほしいから。

「春近し」は春と冬の間で今の時期と合っていると考えたので、選んだ。

- ・ アルバムの用意が良かった。アルバムの写真を選んだ際のポイントは何か。
- 授業者 動きや様子が分かるもの、大学生と写っているもの、表情がいきいきしているもの、動きのある一瞬という項目を基準として選んだ。
- 運動会の月のアルバムに、写真がある競技とない競技があった。動きのある写真を選んだ子どもも多かったので、選定した写真が非常に良かった。
- 授業者 運動会の月のアルバムについては確認不足であった。
- ・ 短冊に一行で書かせた意図は何か。
- 授業者 行をあげない、俳句を分けないことが俳句を書く際の基本であるので、その基本に沿って書いてほしかった。
- ・ 児童が選定した思い出の時期と季語の時期が異なることは授業者の意図としてよかったのか。
- 授業者 季語と児童自身が書いた部分に時期の差があることにも良さがあるので、良かった。わくチャレの活動自体にあまり時期が関係していない。

○意見・感想

- ・ 授業者の自評で、句会の鑑賞に時間が取れなかった、鑑賞が詳しくできなかったことについて、削れる部分を考えた。わくわくゲームの活動内容を活かして、授業の導入部分の振り返りを削ることができたのではないか。
- アルバムを紙ではなく、タブレットで配布すると、児童に同じ条件で公平に配布することができたのではないか。
- 自分が選んだ時期は7月なのに季語が春近しで違和感を感じている児童もいたため、とりあわせの技法についても説明があった方が良かったのではないか。
- 苦手な児童も楽しそうに授業に取り組んでおり良かった。
- 授業者 時間を区切ることが大切であったと思う。
- アルバムを紙にした理由は、グループなどで会話をしながら活動してほしいから。また公民館にはインターネット環境が十分でない。児童のタブレットは学校にあるため、指示等が大変である。
- とりあわせの技法の説明は時間がなくて省いたが、入れればよかった。

○指導助言青木先生のお話

児童と先生の受け止め方の差はどうしても生じる。

とりあわせの技法があることで言葉の世界だけでの化学変化が起こる。

めあての「思い出を振り返ろう」が児童の印象に残る。振り返りをしつつも今から行う俳句を作成する作業が全く違うものという説明を行えばよかったのではないか。

児童、先生が感じる面白さには違いがある。鑑賞の際に、得点をもとにして選んだ句、児童の視点から選んだ句、先生の視点から選んだ句という多様な視点から鑑賞をすると良い。先生の視点からの時には、正しさや俳句の良さを選んだ句を通してさらっと伝えると良い。点の入らない子を選ぶと、先生から見ると面白いと思ってくれるという可能性を見出す効果もある。

「春近し」という季語は1月の晩冬、立春前あたりで使われる。今の時期では「春寒」や「春浅し」、「春隣」が適切だが、これは作る側のこだわりで、児童には伝わらない。

落ち着いて指示ができています。

先生が説明している時、感覚やスピードは児童には伝わりにくい。小学校はより浸透の度合いが低い。先生が焦って説明すると児童は追いつけなくなる。読点を打つ感覚で、間を置いて、確認しながら授業や説明をすることが大切。児童とのタイムラグを見ながら授業を進めることが大切。

○堺さんのお話

少し早口で聞き取りにくい部分があった。

活動を思い出しながらできる授業で良かった。ネタを仕込むのが大変であるが、大切な授業の内容である。

○高橋先生のお話

思い出や俳句が沢山の日になった。松山の人にとっても俳句は大切な文化であり、俳句の授業はありがたい。

俳句の種を探す活動や鑑賞会が特に良かった。方法を学ぶことができれば、子どもたちは次に生かすことができる。

消しゴムのゴミの対応が良かった。

○木村さんのお話

授業をしながら、都度、子どもが何をしているかをおさえることが大切。

季語は変化を味わうよりも、それぞれアルバムの季節によったもので、児童にとってしっくりくるものの方が良かったのではないか。

●俳句を作る際に、児童に声掛けをして効果的だったことを共有し合う。

・大学生 N 児童に「音などを俳句に付け足したらいいのではないか」と提案したことが効果的であった。

・大学生 H 俳句が作れていない児童に、「俳句の種を探した際に書いていた「笑顔」という言葉はどこの写真を見て思いついたのか」と尋ねたこと、「表情と動きを組み合わせてみたらどうか」と提案したことが効果的であった。

・大学生 T 俳句を作るのが苦手な児童で、運動会の写真で俳句を作りたい児童がいた。「めくりんぴっく」は7文字で下5に入れるには文字数が合わないため苦戦していた。「めくりんぴっく」を5文字で言い換えてみるとどうなるか」と提案すると、「うらがえす」という言葉が誕生し、効果的な声掛けができた。

・大学生 F 全国統一についての俳句を作っている児童に、書きたい情景を決めて、書き換えや言い換えを行うように助言をしたところ、その助言が考えるポイントになっており、効果的であった。

・大学生 T 自分が写っている写真が嫌で、写真を見ない児童がいたが、自分で思い出して書けるように助言をした。また下5に苦戦をしている児童にしっくりくるまで一緒に言葉を考え、しっくりくるまで話すことも大切だと思った。

・大学生 S 調理実習についての俳句を作成している児童に、作る際の支援として「何をしたか」や味などの質問をしながら俳句を作るように助言したことが効果的であった。

・大学生 S 鍋を見つめ合っている時の気持ちについて書きたい児童に、「鍋を見ている時どのような気持ちであったか」、「どうしてはやく食べたいのか」を質問したことで、納得してくれて効果的であった。

●卒業する4回生からのお話

Fさん 2年間継続して参加してくれた児童について。5年生では感想シートの記述や活動中の態度がネガティブであった。しかし今年度は、行動をする前に大学生に質問をしたり、人と関わりを持とうとしたりしていた。感想シートで「楽しかった」と記述していた。わくチャレの中でも児童に変化がある。大学生がまずは児童の名前を記憶し、関係を作るのが大切。児童の成長には発表などで自信がついたことも関係あるだろう。

Sさん 6年生から積極的に活動に参加したり、自分から応援できるようになったりした児童がいて成長を感じた。控えめだった児童が、児童から話しかけてくれて距離が縮まったと感じた。わくチャレを通して児童の成長の様子を見守ることができ、やりがいを感じる。

Sさん わくチャレに児童の弟や妹が参加してくれた時に、家族にもわくチャレの活動が広まったと思い嬉しかった。2年で通して見守れることで児童の元気さや変化も分かる。わくチャレは白松先生が学級経営も知れるようにと作ってくださった活動。その視点を持って参加すると視点も広がると思う。

Tさん みんなで共有することは大切。電話連絡等を通して今年度は忙しい児童や自分で頑張っている児童が多かったと感じた。わくチャレに参加できなかった理由なども、関係が深まると児童は大学生に言えるようになる。休んだ子に次の月のわくチャレで確認の意味も込めて話しかけることは大切。年度によって児童の雰囲気や色は異なる。毎年同じようにはいかないが、目の前の子どもを大切にに関わる必要がある。

2 小学校における継続型学習支援

特別に支援の必要な児童への補助

教育学部学校教育教員養成課程（初等教育コース）3 回生

実施記録 松山市立道後小学校 令和7年5月21日
<ul style="list-style-type: none">・特別支援学級5クラスの内、1つのクラスについて、児童の授業のサポートについたり、クラス内の様子を観察したりした。・特別支援学級5クラスそれぞれに自己紹介や交流を行った。・教員の方々に自己紹介を行い、児童についての説明を受けた。
ふれあいを実施しての省察（ふりかえり）
<p>1. 児童とのコミュニケーションの仕方を実践の中から学ぶ。</p> <p>○自己評価…3</p> <p>○評価理由と省察</p> <p>初日ということもあり、全員とたくさん会話したり、交流したりということができなかった。関係性がない状態での学習補助や授業サポートもなかなか難しかった。しかし、児童の名前を覚えて名前を呼ぶように心がけたり、休み時間に積極的に話しかけたりして、関係作りを主体的に行うことができた。</p> <p>2. 教員の動きや関わり方を観察し、具体的支援方法を学ぶ。</p> <p>○自己評価…4</p> <p>○評価理由と省察</p> <p>担当の先生の動きや関わり方を、視線や話し方、指示の仕方に着目して観察することができた。子どもから見てどこに立つのがよいのかを考え、子どもに合わせて立つ位置や姿勢を変えていることが分かった。また、難聴の子どももいたので、話す時はゆっくり、大きく、高めの声で話していた。その工夫を真似すると、最初よりも児童に伝わりやすくなった。ほめる言葉も重要だということを実感した。自己肯定感や達成感を高めるために、先生方が積極的に褒めることをしていた。</p> <p>3. 教室内の工夫といった基礎的環境整備の仕方を観察する。</p> <p>○自己評価…4</p> <p>○評価理由と省察</p> <p>黒板の工夫が大きかった。黒板には児童それぞれの写真とホワイトボードがあり、ホワイトボードには今の時間することが明記されていた。時間割の黒板もそれぞれの写真と名前が書いてあり、分けられて書かれていた。また、それぞれの教科のシールラベルをはってあり、平仮名表記に加えて教科の絵が描かれていた。視覚的に分かりやすく整備されていて、子どもたちが何をしたらいいのか分からなくなって困惑する状況が見られなかった。</p>

3 小学校における短期型学習支援

少人数学級・複式学級授業補助

教育学部学校教育教員養成課程（初等教育コース）4 回生

実施記録	松山市立中島小学校	令和8年2月24日・25日
授業観察、授業支援、休み時間での交流、研修		
ふれあいを実施しての省察（ふりかえり）		
1. 子どもと積極的に関わりながら、授業の補助を行う。 5点		
<p>積極的に子どもに話しかけたり、分からない問題があった際には、解き方を教えたりしながら、授業の補助を行うように心掛けた。図工の授業では、子どもが様々なものを作製していたため、子どもの手伝いになるように、アドバイスをしたり、直接作製を手伝ったりして、積極的に行動するようにした。1年生が冬遊びを生活科でしていた時、子どものお手本になるように、一緒に冬遊びとして、おはじきやお手玉を行った。</p>		
2. 少人数学級・複式学級の様子を観察する。 5点		
<p>ークラスの人数が少数であるため、教師と子どもの距離が大変近く、教師が一人一人の子どもと深く関わっていたのが大変印象的だった。一度に見る子どもの数が少ないことから、授業中に教師が子ども一人に対して、時間をかけてじっくり教えていたのも、少人数学級ならではのと感じた。複式学級では、一時間の授業のうちに、二つの学年に勉強を教えなければならないことから、黒板やホワイトボード等を上手に活用し、交互に教えていたのが印象的だった。授業中に子どもが何もしない時間がないように、一方の学年を教える時は、もう片方の学年には、やることを指示していたのが印象に残っている。複式学級は初めて見るということもあり、とても学びあるものであった。それと同時に、教師の大変さと凄さを実感した。そこから求められる能力としてマルチタスクが挙げられる。自分自身、大学を通して、この能力を磨いてきた。来年からは教師になるため、実践へと移していきたい。とても勉強になった。</p>		
3. 様々な先生方や地域の方々とお話をする。 4点		
<p>中島小学校の様々な先生方とお話をさせていただき、小規模校の良さを実感した。特に、教員と地域の方々や保護者の方々とのつながりが強いというお話が心に残っている。また、中島小学校の児童と中島中学校の生徒との交流会では、中島中学校の先生ともお話をさせていただいた。25日には、参観日があり、保護者の方々が来校されていたが、あまり保護者の方々とお話をする事ができなかつたため、少し心残りとなっている。</p>		

4 中学校における短期型活動補助

調理実習の補助（2月魚のホイル焼き）

教育学部学校教育教員養成課程（中等教育コース）3回生

実施記録 愛媛大学附属中学校 令和8年2/3(火)、2/5(木)、2/13(金)：2校時(9：50～10：40)・4校時(11：50～12：40)
中学1年生家庭科の「魚のホイル焼き・豚汁」の調理実習において、事前準備や片付けの補助を務めたほか、現職の先生方の指導方法や生徒への声掛けを観察したり、適宜必要なサポートを行ったりした。
ふれあいを実施しての省察（ふりかえり）
(1) 限られた時間の中で調理実習を円滑に進める為のポイントや工夫、教師の声掛けを学ぶ。 【5】 第一に、本調理実習では1時間で魚のホイル焼きと豚汁を作ることになっていて、材料・作業工程も多い上、感染症の流行に伴って欠席者が多く、2～3人の少人数でのグループも見受けられた。加えて、感染症対策の観点から、調理室で実食するのではなく、別教室で生徒が前を向いて食べる形式だった為、完成した料理を運ぶ必要があり、より一層時間がかかる状況だった。そのような点を踏まえて、時間短縮のために油を前で計量させずに予め計量したものを鍋に入れて準備したり、人参の皮むきを省いたりする等、様々な工夫がなされていた。 また、今回計3クラス分の授業に参加させていただいたが、最初のクラスでは完成するまでに想定よりかなり時間がかかってしまった。その状況を受けて、現場の先生はすぐに改善点をピックアップし、修正する等して2クラス目からはかなり時間短縮に繋がっていたので、軌道修正力が非常に大切であり感銘を受けた。特に、今回最初のクラスでは「出汁の取り方」を教師が前で実演していたが時間がかかる為、実演を省き、その代わりに出汁の試飲を行う形に変更することで時短に繋がっていたと考える。事前準備の観点では、使用する道具の確認や材料のカット・計量等を怠らず、運びやすいようにトレイに材料を置いたり、濡れないようにレシピはファイルに入れたりするといった工夫があった。そして、板書に関しては、布巾の種類(実物掲示)や生徒が取りに行く器具を示すとともに、各料理のポイントを簡潔に記載していた。併せて、口頭での説明では、調理を円滑に進める為に最初に取り組む作業(出汁を取る為に水を入れて火にかける・余分な水分を出す為に鮭に塩を振る)を伝えており、生徒もしっかりと聞いていた印象だ。生徒が完成した料理を食べている間も、教師は先を見通した行動を行っており、ゴミの回収や途中になっている洗い物の補助等、出来る範囲で片付けに取り組まれていた。特に、今回は生徒の人数が少なく、豚汁の余りが特に多かったが、片付けを早くさせる為に先生が食べられる子を見つけて注ぐ等の対応を取られていた。 教師の声掛けに関して、調理→実食→片付けという一連の流れをスムーズに行う為に、「午後の授業までに片付けまで終わらなかつたら放課後残って行う」と伝えると、生徒は一段とやる気になり、率先して協力するようになるのだと知り、1つの指導の工夫だと実感した。
(2) 広い視野を持ち、臨機応変に適切なサポートをする。 【4】 第一に、調理開始前には、本実習で使用する調理器具の準備や必要な材料の確認、洗剤・スポンジ・布巾の用意や環境整備(窓開け)等を行い、先生に適宜確認しながら取り組むことができた。そして、今回は欠席者が多いこともあって、普段以上に生徒のサポートに尽力した。このサポートをする中で時間短縮には繋がりたいが、生徒の主体性を奪ってはならないということのバランスが個人的に難しいと感じた。調理中は、生徒からの質問に

答えながら、1つのグループに付きっきりになるのではなく、満遍なく全体を見渡しながら進捗状況に応じたサポートができたのではないかと感じる。加えて、最初のクラスで豚肉を炒める為に使用する油を、誤って鍋の蓋に入れてしまったり、ホイル焼きに使ってしまったりと多々ハプニングがあったが、そのような状況でも焦らず冷静に対応できたと思う。また、作業が終盤に差し掛かったタイミングで、生徒が使用して返却したまな板や包丁、ピーラーをしっかりと汚れが付いてないか確認しながら片付けをした。さらに、作業進度に差が生じた関係で、調理室に残っている生徒と実食で別教室に生徒がいるという状況があったが、その際に別教室の生徒の様子を確認する等、1人の先生では目が行き届かない時にサポートすることができた。

(3)安全面や衛生面に十分配慮する。 【4】

第一に、本調理実習では包丁やピーラー等の器具を使用する為、終始安全面への配慮を怠らないよう意識した。併せて、今回「鮭に塩を振って水気を出す工程」と「豚汁用のお肉を切る工程」があった。その際、本来野菜を切る用に準備していたまな板の上で、魚やお肉を広げる生徒が見られた為、衛生面への配慮から一緒のまな板で切らないよう声掛けをすることができた。そして、今回魚アレルギーの生徒がいた為、その生徒への個別対応がされており、生徒の安全を確保する上では事前の確認が非常に重要だと再認識した。また、調理中に一部どこからか焦げ臭いと感じた場面があり、異臭を感じた時には咄嗟に先生が全体を見渡し異常がないかを確認していた点も印象的だった。また、調理後の片付けでは、野菜の皮やごぼうの土、豚汁の油やホイル焼きの汁等によってシンク内が汚れていた為、しっかりと確認しながら綺麗にすることができた。加えて、台拭き・コンロ周辺・食器拭きと用途に応じて複数の布巾を準備することで、衛生面への配慮に繋がっていると実感した。最後には、保健委員さんが全員の机上を消毒しており、しっかりと衛生的に保つ工夫だと感じた。

5 中学校の課外活動における指導支援

サッカー部 部活動指導

教育学部学校教育教員養成課程（初等中等教科コース）1 回生

実施記録	川内中学校	令和 8 年 1 月 16 日（金） 16:15~17:15
練習メニューの提供、技術指導		
ふれあいを実施しての省察（ふりかえり）		
<p>1. 生徒の技術向上に貢献し、練習の質、多様性、活性化を図る。 4 点 指導を行う中で、技術向上をできるようにさせると捉えすぎていたのではないかと思った。生徒にとっては、上達の実感を得られるかどうか練習への意欲を左右する。難度の高い練習や理論的な説明は有効である一方、達成感を得にくい場合には逆効果になることもあった。そこで、生徒の視点に立ち、成功しやすい課題と挑戦的な課題を組み合わせよう工夫したところ、練習への前向きな姿勢が見られるようになった。練習の質とは、指導者が満足する内容ではなく、生徒が意味を感じられるかどうかで決まると感じている。今後は、生徒の反応を手がかりに練習内容を再構成し、活気ある学びの場をつくっていきたい。</p> <p>2. 生徒一人ひとりの変化に着目し、個々に適したアドバイスを心掛ける。 5 点 生徒の変化に着目する中で、指導者が評価している点と、生徒自身が気にしている点にはずれが生じることがあると感じた。例えば、指導者が技術的な改善を伝えても、生徒は人間関係や失敗への不安を抱えている場合がある。こうした状況では、的確な助言であっても十分に届かない。そのため、まず生徒の様子を観察し、状況に応じて声をかける内容やタイミングを調整することを意識した。その結果、生徒が安心して話をする姿が見られ、助言を前向きに受け止めるようになった。個々に適したアドバイスとは、内容の正しさだけでなく、生徒の心理状態を踏まえた関わりである。今後は、技術と心の両面から支援できる指導を目指したい。</p> <p>3. 生徒との授業外での関わりを経て適切な言動を学び、教育活動の一環として部活動の在り方を考える。 5 点 授業外での生徒との関わりを振り返る中で、部活動は生徒にとって安心して失敗できる場である必要があると感じた。勝敗や結果が重視される場面では、指導者の言動が生徒の萎縮や過度な緊張を生むこともある。これまで、自分の発言が生徒の挑戦意欲を損なっていなかったかを深く考えるようになった。生徒と日常的に対話を重ねる中で、過程を認める言葉が生徒の行動を前向きに変えることを実感した。部活動は競技力向上の場であると同時に、自己肯定感や他者との関係性を育む教育の場である。今後は、生徒が安心して挑戦できる環境づくりを意識した関わりを大切にしていきたい。</p>		

6 高等学校における教育体験活動

学び直し（数学）のサポート

理学部 理学科 1回生

実施記録	松山聖陵高等学校	令和7年11/7, 14, 21, 28, 1/16, 23, 30, 2/6 (8回)
数学検定の受験へ向けた生徒の学習において、教室内を巡回しつつ、手が止まっている生徒に声をかけ、理解しやすい説明を常に意識しながら学習のサポートを行った。		
ふれあいを実施しての省察（ふりかえり）		
<p>(1)先生方の生徒への声掛けや接し方などを観察し、多くの学びを得られるように心がける。【評価4】</p> <p>教室内における先生方の生徒への接し方だけでなく、廊下や職員室といった様々な場面で生徒と関わる先生方の姿を見て、コミュニケーション能力や生徒一人ひとりを丁寧に観察する力の重要性を改めて実感することができた。また、各実習での経験を通して、先生方への感謝や尊敬の気持ちを込めた挨拶の仕方や、生徒への積極的な声掛けを意識し、実習で得た学びを知識として留めるのではなく、体系的に理解できるよう努めた。さらに、生徒と教員との関わり方だけでなく、教員同士の声掛けや接し方についても、実習を通して学ぶことができたと感じている。</p>		
<p>(2)生徒の様子を注意深く観察し、必要な対応が出来るように努める。【評価5】</p> <p>本実習では、教室内を巡回し、手が止まっている生徒に声をかけ、理解しやすい説明を心掛けながら数学の学習のサポートを行った。巡回の際には、生徒一人ひとりの動きや姿勢、表情などから学習支援の必要性を見極められるよう努めた。特に、「手が止まっている」「焦っている」といった断片的な動作だけで判断するのではなく、複数の様子を総合的に捉え、適切な生徒に必要な支援を行えるよう意識した。</p>		
<p>(3)生徒との適切な距離感や言葉遣い、接し方などを身につけるために、積極的に生徒と関わっていく。【評価3】</p> <p>本実習では、教室内で支援が必要な生徒に対し、より理解しやすい説明ができるよう努めた。具体的には、各実習にメモ帳を持参し、説明の過程を書き込みながら指導することで、言葉だけでなく視覚的にも理解を促す工夫を行った。また、実習を重ねる中で、各生徒の苦手分野やよく質問される問題の傾向を分析し、より良い学習支援ができるよう、生徒との積極的な交流を意識的に行った。しかし、実習内で十分に関わることができなかった生徒もいたため、生徒との交流方法や接し方について、さらに学ぶ必要があると強く感じた。</p>		

7 高等学校における教育体験活動

吹奏楽部の指導補助

教育学部学校教育教員養成課程（初等中等教科コース）1回生

実施記録	愛媛大学附属高等学校	令和7年11月3日（月）9:00~12:00
・アンサンブルコンテスト校内予選の審査 ・クラリネット、混合のグループの指導		
ふれあいを実施しての省察（ふりかえり）		
1. アンサンブルコンテストの校内予選において審査員役を務め、客観的で音楽的な視点から演奏を聴く。 5点		
それぞれのグループの演奏を聴き、効果的なアドバイスをすることが難しいと感じた。それでも、なるべく個人の技量ではなく、アンサンブルの面や音楽的な表現の面での評価をすることを心がけることができた。また、最初の点数設定が難しいことにも気が付き、審査員の目線での新たな発見をした。		
2. 演奏を聴き、具体的な改善点やアドバイスを行う。 5点		
クラリネットと、混合のグループの指導を行った。吹きなおすタイミングが合っていなかったところを合わせてみると、生徒もしっかり来たようで喜んでくれた。また、音量バランスやダイナミクスもアドバイスし、改善が見られた。		
3. 次からどのように練習していくのかの方向性を考えてもらい、共有する。 5点		
特に混合四重奏では、ダイナミクスの表現があいまいになっていることが課題だったため、今後は皆で相談し合いながら「仕掛け」を作っていくことを決めた。その場でアドバイスするだけでなく、今後の方法も示すことができよかったと思う。		

8 幼稚園における活動補助

附属幼稚園運動会の補助

教育学部 学校教育教員養成課程（初等教育コース） 3回生

実施記録 愛媛大学教育学部附属幼稚園 令和7年10月11日（土）7:30~12:00
運動会の準備・片付け 競技の道具の出し入れ・片付け・運営補助
ふれあいを実施しての省察（ふりかえり）
1. 運動会における職員の仕事について学ぶ。5/5 子どもたちが今まで練習してきた成果を最大限に引き出せるような環境としての教員の在り方、保護者とのコミュニケーションの取り方、運動会を進めていく中での教員の仕事について学ぶことができた。水分補給やトイレなど、適宜声掛けを行うことで、子どもが健康に楽しく運動会に参加できるようにしているのだと理解することができた。
2. 積極的に行動し、スムーズに運動会を進行できるように補助する。4/5 準備や片付けなど、何かできることはないか教員に聞いて動くことで、スムーズな運動会にすることができたと思う。準備や片付けなど、時間やその後の活動を見て適宜確認しながら行うことができ、効率的に動くことができたのではないかと考える。一部、子どもとかかわっており補助を必要としている場面に気付きにくい部分があったため、より周りを見ることの重要性についても学ぶことができた。
3. 子どもたちの様子を見て、発達について、それに合った活動について学ぶ。5/5 子どもの身長や発達に合わせて、安全に楽しく活動できるような競技が多くあった。特に、表現活動では子どもが練習の成果を精一杯出せるように、教員が陰から見本で踊ったり周りで一緒に踊ったりという支援をすることで、困り感を持つことなく活動できるようにされているのだと思った。 各年齢において、その発達段階に合わせたものとなっており、その発達でできること、少し難しいことなどを実際に見ることでより理解することができた。

9 社会教育施設等での活動支援や活動補助

第29回『もっとあそんでつながれともだちのWA』 あそぼうフェスタ

教育学部学校教育教員養成課程（教育発達実践コース） 1回生

実施記録	松山市久枝児童館	令和7年6月29日
会場準備、出入口誘導、来場者集計、子どもたちと体を動かすゲーム、会場片付け		
ふれあいを実施しての省察（ふりかえり）		
<p>① 子どもとの関わり方を学び、実際の触れ合いを通して相手に合わせた接し方を身につける。</p> <p>→4【理由と省察】子どもたちと実際に体を動かすゲームを楽しんだり、休憩中一緒にお話をしながら昼食を食べたりといったことを通じてコミュニケーションをとることができた。が、子どもたちの中には少し内気で話したがらない子もいて接し方に苦戦したため、伸び代の意味を込めて4点をつけた。子どもたちは何事にも全力で、ゲームの片付けまで楽しんでやっている姿が見られて私自身も明るく朗らかな気持ちになれた。ボランティアの中には教育学部の先輩も数人いて、子どもへの問いかけ方や表情が豊かな所等が非常にいいなと思い、良い学びになったと感じている。</p>		
<p>② イベント運営のサポートを通して、チームで協力して行動する力を高める。</p> <p>→5【理由と省察】活動していく上でペアになって行動することが多く、ペアの人と役割分担をしながら様々な仕事に率先して取り組むことができたため5点をつけた。イベント運営の活動は今回が初めてだったが、誰か1人ではなく皆で力を合わせて協働することでイベント成功に繋がり、よりよい運営ができるのだと実感した。多くの人の頑張りがあってのイベントだと感じる事ができた。</p>		
<p>③ 地域の子育て支援に参加することで、地域の人たちとの繋がりや支え合いの大切さを感じる。</p> <p>→5【理由と省察】施設の職員の方やイベントスタッフの方、そして他の団体ボランティアの方々と沢山お話をしながらあらゆることに臨機応変に対応できたのではないかと感じているため、5点をつけた。来場者集計をしていると、職員の方が子どもたちと遊んできていよいよ役割を交代して下さったお陰で私自身一緒に楽しめたし、逆に職員の方が困っている時にはすぐに駆けつけてできることは無いかと率先して行動することができた。</p>		

10 社会教育施設等での活動支援や活動補助

しみずサポートボランティア

教育学部学校教育教員養成課程（教育発達実践コース） 1回生

実施記録 いきがい交流センター清水 令和7年9月3日(水) 4日(木) 5日(金) 12時45分～13時15分
子どもたちと交流する・スタッフさんのお手伝い
ふれあいを実施しての省察（ふりかえり）
1. 子供たちを含む多世代の方と積極的に関わる（5） 子どもたちと、認知症月間のオレンジをイメージして、オレンジの輪飾りや折り紙、花のイラストを作成した。それぞれの作品に個性が出ていて、完成したものを見てみると鮮やかなものも多く、上手にできていたと思う。また、作品を作る際には、適度に子どもに声をかけながら、子ども自身が持っている世界観を大切にしたいなと思い、サポートを心がけた。」
2. 困っている人がいたら自分から声をかける（5） 高校生の子がサポートボランティアの見学に来てくれた時に、自分から積極的に声をかけたりして、居心地の良い空間づくりに努めた。高校生の子たちは、初めての小学生との交流で、初めは緊張している様子もうかがえたが、子どもたちとコミュニケーションを楽しく交わしており、充実していた。その後の振り返りでは、子どもたちとの交流の仕方について、自分なりではあるが、アドバイスをした。少しでも参考になっていたら嬉しい。
3. スタッフさんの指示に的確に応じ、自分でできることに積極的に取り組む（5） 子どもたちの人数が特に多い日は、隣の部屋に移動をして、夏休みわくわく企画で自分たちが考案した、単語を作るゲームを行った。わかりやすくルールを説明するのは難しかったが、みんなが積極的に動いてゲームを楽しんでくれて良かった。物事を簡潔に説明する能力は、まだまだ高める余地があるなと感じた。

11 社会教育施設等での活動支援や活動補助

第42回愛媛ブルーランドサマーキャンプ（愛大提供事業）

医学部 看護学科 2回生

実施記録 愛大提供事業（国立大洲青少年交流の家）令和7年8月9日～8月11日
国立大洲青少年交流の家 ・血糖値の確認 ・食事摂取量の確認 ・カーボカウントの補助 ・インスリン注射の手技の確認 ・荷物や持ち物の整理の支援 ・補食・体調の確認 ・記録のまとめ
ふれあいを実施しての省察（ふりかえり）
キャンパーが行う血糖測定や注射、食事管理の場면을観察し、行動の根拠や支援の工夫を記録・振り返ることで、自己管理支援の看護を考える。 評価：5 キャンパーの血糖測定やインスリン調整、食事管理の場면을継続的に観察し、行動の背景にある思考や経験を記録・分析することで、自己管理支援の看護について多角的に考察することができた。特に、思春期特有の感情や環境の影響を受けながらも、自己管理に向き合う姿を通して、「技術的な支援」だけでなく「心理・社会的側面への理解」が不可欠であることを実感した。また、記録を通じて自身の関わりを客観的に振り返り、翌日の支援に活かすという実践を継続できた点も、目標達成において重要な成果である。一方で、日常生活への移行を見据えた声かけの難しさや、自身の不安との向き合い方に課題を感じたが、それを省察し次の支援に繋げようとする姿勢は、支援者としての成長の証である。今後は、子どもの気持ちに寄り添いながら、日常に根ざした支援の在り方をより意識していきたい。
2、専門職の方がキャンパーに関わる場면을観察し、それぞれの職種がどのように情報共有・支援しているのかを記録する。 評価：4 キャンプ期間中、看護師・栄養士・医師などの専門職がキャンパーに関わる場면을観察し、それぞれの職種がどのように役割を果たし、情報共有を行っているかを記録することができた。特に、血糖値の変動に応じた迅速な対応や、心理面への配慮を含んだ支援から、専門職間の連携の重要性を実感した。一方で、記録は場面の描写に留まり、支援の背景にある専門的判断や情報共有の具体的な方法まで深く掘り下げるには至らなかった。今後は、支援の「結果」だけでなく「過程」や「意図」に注目し、専門職の視点や連携の仕組みをより構造的に理解する力を高めていきたい。今回の経験は、チーム支援の実際を知る第一歩となった。

12 社会教育施設等での活動支援や活動補助

大山積神社秋祭りのサポート

教育学部学校教育教員養成課程（初等中等教科コース）1回生

実施記録 愛媛大学提供事業（大山積神社周辺（道後小中学校校区・石手地域）） 令和7年10月7日（火）6:00～9:00
小学生の神輿の運行補助・巡行
ふれあいを実施しての省察（ふりかえり）
1. 子供たちの様子を注視し、その場に応じた適切な発言やサポートができるようにする。 5点 神輿を担げずに後ろでついてきている子に声をかけて担がせたり、重そうにしている子の補助をしたりすることを率先して行うことができた。笛を吹かせていただいていたが、掛け声が足りないときは自分から声を出し、その後笛を吹くなど、盛り上げるための工夫も考えてできたと感じている。
2. 学校生活での姿とは異なる、子どもたちの様子や関わり方を学ぶ 4点 学校生活で見られるものとは異なる「溢れるエネルギー」を感じることができた。私たち大学生ボランティアが疲れてきた場面でも、元気いっぱい、非常に驚いた。私が担当した低学年の子たちは、学年や性別を問わず、和気あいあいとした雰囲気だった。また、お祭りを楽しみにしている子が多く、「去年はここでお菓子をもらえたから、楽しみなんだ」などと、過去に参加したときの様子をうれしそうに話してくれる子もいた。一方、改善したい点は、特定の子とばかりでなく、いろんな子と話していくことだ。自分に話しかけてくれた子とずっと話しているという状況だったので、私からも声かけをしていきたい。今回関わりの薄かった高学年の子の様子も知りたいと思った。
3. 自分自身が楽しみながら参加することで地域の人々の熱量を体感し、地域と子どもたちの教育について考えるきっかけにする。 5点 お祭りに参加されている地域の人々はみな楽しそうで、笑顔であふれていた。その中には地域の教員の方もいらっしゃった。お祭りは、今までもこれからも人と人をつなげ、一回り大きくさせてくれる場所であり、その意味においては学校教育ともつながるだろう。やはり教員は、その地域の様々な人と「顔見知り」となり、マインド面からつながりを深めることで、地域の魅力・愛着を子どもたちに伝える学校づくりに近づけていけるのではないかと確信した。自分が教員になった際にも、ぜひ積極的に地方祭に参加し、子どもたちと祭りの話をすることを通して「地域への思い」を育てていきたい。

13 社会教育施設等での活動支援や活動補助

第8回多文化Cookinの補助

教育学部学校教育教員養成課程（初等中等教科コース）1回生

実施記録 愛媛大学提供事業（コムズ） 令和7年7月13日（日）10:00~14:00
スライド資料の作成、当日の司会、子どもたちとの交流、料理作り
ふれあいを実施しての省察（ふりかえり）
① 自分の役割をしっかりと果たす（3） 特に担当が決められていたわけではなかったため、状況に応じて行動するという場面が多かったが、特に後半においてはまずまずの動きができたと思う。子どもたちや外国の方ともそれなりにコミュニケーションをとり、楽しく活動できるように気を配ることができた。ただし、特に序盤は役割の確認を怠ったこともあって、ミスをしてしまい、少し戸惑ってしまったことがあった上、結局一つのところにつきっきりになって全体の様子を確認することがうまくできなかったため、しっかり反省して今後の活動に生かしていきたい。
② 周囲の動きに気を配って臨機応変に行動する（3） 先述の通り、序盤はうまくいかず、自分も周囲も混乱させてしまったが、後半は役割の確認をしっかりするように心がけ、少しずつ的確に行動できるようになることができた。最初からより良い行動ができるように反省をしっかりとしたい。
③ 活動を通してたくさんの人と交流する（4） 活動を通して、子どもたちや外国の方と交流し、文化やそれぞれの個人的な状況も含めて、たくさんの人について知ることができた。特に外国の方との交流では、普段あまりかかわることのない国の人もいて、その国について知ることができたことで自分にとって勉強になった。また、子どもたちについては、少し静かにさせるのに苦労することもあったが、とても素直で活発な子たちばかりで、楽しく活動することができたし、子どもたちとのかかわり方など、自分にとっても学びとなる部分をたくさん得ることができた。



2025 年度地域未来教育賞受賞者 9 名

地域未来教育賞は、細かい規定はありますが、大まかに地域連携実習に 60 時間以上の参加をし、なおかつ推薦された学生に送られます。



2 回生

武方悠朗さん 吹奏楽部の指導補助、他

3 回生

大山順平さん リーダー村、集団宿泊学習の補助、他

西川拓海さん 中島中学校寄宿舎「青潮寮」での大学生によるオンライン学習支援 キッズジョブの補助、他

白石杏莉さん ICT サポート実習 遊びの学校、他

杉森楓さん ICT サポート実習 校外学習の補助、他

大西花乃さん 愛媛大学放課後学習教室 校外学習の補助、他

末光史佳さん ICT サポート実習 校外学習の補助、他

宇都宮知優さん 部活動の補助、他

4 回生

柳生しずくさん 伊予市ひとり親家庭学習支援事業「伊予っ子教室」の補助 愛顔（えがお）のえひめ特別支援学校技能検定、他 1 度だけもらえるものです。

地域連携実習 30 時間以上の参加が条件の「地域教育支援認定証」は、今年度申請をして授与されたのは、21 名でした。